

産経新聞

EVENING MAGAZINE

ライバル徹底研究



大阪外国語大学



あかぎ・おさむ 昭和19年、岡山県生まれ。大阪外大タイ語学科卒。タイ・チュラロンコーン大留学を経て、大阪外大助手、助教授、教授をへて、平成11年3月から学長。専門はタイの政治・社会論。著書に「タイの政治文化 剛と柔」など。



赤木攻氏

実学重視、アジアにも重点 大阪商人の心意気が脈々と...

大阪外大と東京外大それぞれの特色は、「大阪外大の歴史は、大阪の実業家の夫人、林蝶子さんが夫の遺産百万円を国に寄贈したことに始まります。これをもちに大正十年(一九二二)年、前身の『大阪外国語学校』が創設されました。国立ではありませんが、その底流には民の流れ、大阪商人の心意気が脈々と続いています。実学を重視し、地域的にかかわりの深かったアジアにも重点を置いた伝統があります。東

大阪は(首都にあることから)政・官とのかかわりが強いように感じますね」
近年、大学改革が各地で行われています。大阪外大でも大改革が行われましたね
「平成五年度にそれまでの語学科を改組し、『国際文化学科』『地域文化学科』という二学科編成にしました。外大に求められているのは、外国語を話す能力だけではなく、その言語を基盤とした社会の文化を学びとり、総合的に理解する『外国学』こそが重要となってきています」
各学科で学べることは「本学で特色があるのは国際文化学科です。この学科の学生は、在学中の前半二年間は二十五言語のうち一つを選択して、語学を集中的に学習する。後半二年間は、語学をブラッシュアップするとともに、入学時の五専攻、①言語・情報②日本語③比較文

国際文化学科	地域文化学科
専攻	専攻
<ul style="list-style-type: none"> 中国語 朝鮮語 モンゴル語 インドネシア語 フィリピン語 タイ語 ベトナム語 ヒンディー語 	<ul style="list-style-type: none"> 東アジア地域文化 東南アジア オセアニア地域文化 南アジア地域文化



東京外国語大学

反骨精神あふれる武士の子弟 言語を手段に知識深める

東京外大と大阪外大のカラーの違いは「本学は明治六年(一八七三)、東京外国語学校として建学され、その後高等商業学校(現一橋大学)と合併、今から百一年前に独立したという歴史があります。大阪外大に比べて確かに、官の色彩が強いかもしれませんが、



中嶋嶺雄氏

なかじま・みねお 昭和11年、長野県生まれ。東京外大中国科卒。東京大大学院国際関係論博士課程。52年、教授。平成7年9月、学長。10年から国立大学協会副会長。専門は国際関係論、現代中国学、アジア地域研究。著書に「北京烈烈」など。

が強いかもしれませんが、旧帝大の国立大学とは違い、外交官を除くと、卒業生には官僚を目指す人は少ない。ジャーナリスト、文芸者や学者、企業では商社で活躍する人が多く、軽やかに外に向かつて飛び出す伝統がありますね。強いて挙げれば、大阪の商人気質に対して、こちらは反骨精神にあふれた武士の子弟といった風情があるかもしれませんね」
近年、東京外大でも改革が行われました
「平成四年の大学院博士課程設置に続き、七年に大幅な改革を行いました。従来の語学科制に代わり、より広範な地域別の七課程に改組しています。入学生は、二十六の専攻語の中から主専攻語を選びますが、専門性を明確にするために三年次以降、『言語・情報』『総合文化』『地域・

課程	専攻語	講座
欧米第一課程	英語	言語学
欧米第二課程	英・ドイツ	言語学
	仏・フランス語	言語学
ロシア・東欧課程	ポルトガル語	言語学
	ロシア語	言語学

「現代日本を取り巻く言語の環境は刻々と変化してきています」
「どう変わりますか」
「敷地は今の約三倍になります。美しい施設で従来の立大学のイメージを一新すかもしれませんね。建物だけでなく、中身も変えていきます」
「今秋に東京都府中市いよいよ移転します」
「敷地は今の約三倍になります。美しい施設で従来の立大学のイメージを一新すかもしれませんね。建物だけでなく、中身も変えていきます」

学長インタビュー

文 高梨美穂子、藤原徹/写真 滝